

本棚 ぶらり

こんな

BON・SAI・BON は
盆栽本 いかがですか？

知る 盆栽

『盆栽—大宮盆栽村』

所収(『東京花散歩』^{きしもとようこ}岸本葉子／著 亜紀書房 2011年)

文政年間出版された『江戸名所花暦』を手がかりに、江戸時代から親しまれてきた花の行楽地をめぐるエッセイ集。この中に、なぜか盆栽村が登場しています。

江戸の人々が花と同じように樹木や風景も愛でていたことが感じられる『花暦』の記述から、著者は盆栽を連想し、江戸でも花でもありませんが盆栽村を散歩することにしました。

盆栽村で丁寧な解説を聞き、盆栽の小ささに歓声を上げ、木の向こうに風景を想像し、樹齢千年の松を育んだ年月に想いをはせます。

困る 盆栽

『盆栽老人とその周辺』

^{ふかざわしちろう}深沢七郎／著 文藝春秋 1973年

大宮の盆栽村から20キロほどの農村に住み始めた「私」。盆栽がブームと知り、つい松の苗を買うも、あっという間に枯らしてしまいます。なにしろ自分の顔を洗うのすらめんどろ、毎日水をやらなければならない盆栽などとてもないという性格なのです。

それなのに周囲の人々はどういうわけか、誰もかれもが「私」に盆栽をすすめてきます。眺めるだけのつもりが売られそうになったり、無理やり20鉢も預からされたり、断るのが苦手な「私」は振り回されっぱなしです。

終盤は盆栽から離れて、農村の日常を描いて終わりますが、次から次へと現れるマイペースで強引な人々と、優柔不断な「私」との会話がユーモラスな小説です。



『完盗オンサイト』

玖村まゆみ／著
講談社 2011年

盗む 盆栽

『完盗オンサイト』

^{かんとう}
^{くむら}玖村まゆみ／著 講談社 2011年

「オンサイト」とは、初見のルートを事前情報なしに登り切るという意味のクライミング用語です。登り切ることを「完登」と言います。

21歳の^{こおろ}淡は、海外で活躍するクライマーでしたが、恋人にふられて帰国、職も無く路上生活をしていたところを、寺の住職・^{いわしる}岩代に拾われます。

岩代の世話で建設現場に働きに出ますが、淡が起こしたとある行動が原因で、建設主の大企業会長に目を付けられてしまいます。逆らえない立場に追い込まれた淡に会長が突き付けたのは、そのクライミング能力を生かして皇居に忍び込み、樹齢550年の盆栽「徳川三代」を盗み出せという依頼でした。

多額の負債を抱える元恋人、寺に同居する言葉が喋れない4歳の少年・^{いかる}斑鳩、斑鳩を狙う不気味な男・^{せお}瀬尾と、複雑な人間関係も相まって、最後まで先の読めない展開が続きます。果たして淡は無事に「完盗」できるのでしょうか！？

探す 盆栽

『きみはポラリス』

^{みうら}三浦しをん／著 新潮社 2007年

エッセイ『妄想炸裂』(新書館)や^{なかもら}中村うさぎとの対談『女子漂流』(毎日新聞社)などで盆栽好きを告白している著者。この恋愛短編小説集の中にも、盆栽が出てくる物語があります。どの作品かは、読んでみてのお楽しみ！

